LEADERS NOW!

ビジネスデータサイエンス学部 1期生の活躍

情報科学の発展とAIの進化によって大きく変わりつつある現代社会において、溢れるビッグデータを的確に分析し、ビジネスで活用できる人材が求められている。2025年4月に開設したビジネスデータサイエンス学部では、社会の変革をけん引するビジネスリーダーを育成すべく、産学連携によるアクティブラーニングを中心に、情報・データを活用した実践的な学びを展開している。多様な個性を持った1期生の中から2人の学生に、これまでの活動や入学した理由、学部での学びなどについて話を聞いた。

ポケモンカードゲームで切り拓く データサイエンティストの未来

――日本一への道で得た力が武器

◉ビジネスデータサイエンス学部 1年次生
深瀬 風歩 さん

深瀬 風歩――ふかせ かぶ
■2006年奈良県生まれ。奈良県立生駒高等学校卒業。5歳でトレーディングカードゲームを始める。2017年にアメリカ・アナハイムで開催された「ポケモンワールドチャンピオンシップス」でジュニアリーグ3位、「ポケモンカードゲームチャンピオンズリーグ」では2018年、2020年にシニアリーグ優勝と輝かしい成績を収め続け、2025年「ポケモンジャパンチャンピオンシップス」ではマスターリーグで優勝し日本一となった。

▲「ポケモンジャパンチャンピオンシップス2025」決勝で使用されたデッキ
©Pokémon. ©Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.

2025年6月に開催されたポケモンカードゲームのジャパンチャンピオンシップス(JCS)マスターリーグで優勝し、名実ともに日本一に輝いた深瀬風歩さん。

「2025年に19歳になったことでようやくマスターリーグに昇格して、直後に開催された大会で優勝できたので、最年少優勝という結果になりました。決勝戦は夢にまで見た友人との勝負だったので、緊張するよりも楽しんでプレイできて良かったです」。

深瀬さんが、トレーディングカードゲーム(TCG)を始めたのは5歳の時。試合で勝てなかった悔しさから負けず嫌いの性格に火がつき、TCGの世界にのめり込んでいく。

▲(左)小学2年生で初の公式大型大会「リザードンメガバトル」(2014年)に参加し2位となった

デッキ(試合で使用する手持ちカード)の組み立てやプレイ戦略など、頭をフル回転させて考えることが好きだという深瀬さん。「市場には新しいカードが次々と出てくるのですが、そこから自分オリジナルのデッキにカスタマイズしていくところも面白かった」とますます夢中になり、練習を重ねるうちに天性の才能を発揮。7歳で日本代表になったことから競技プレイヤーとしての人生が始まった。

ポケモンカードゲームの世界大会ワールドチャンピオンシップス(WCS)には、世界3位を含む4年連続30位入賞という快挙も遂げ、その名は日本のみならず世界でも知られていくようになる。

その深瀬さんが、関西大学のビジネスデータサイエンス学部を知ったのは高校3年生の時。学部の学びにTCGと共通した部分があると感じたところから興味が湧いた。

「文理の枠にとらわれない学びに興味を持ちました。TCGにもカードの確率などを考える理系的思考面と対戦相手の心理を読み解く文系的思考面どちらもあるので、通じる部分があるなと思いました」。

またTCGにはカードの組合せを考えるデッキビルダーとしての側面があり、データサイエンスの知識がこのプロセスに生かせるのではないかと考えたという。

「TCG歴も14年になり、プレイヤーとして必要な思考力や推察力、分析力、集中力といった多様なスキルを培うことができました。今の世の中はデータサイエンティストが不足している状況にあると聞いたので、自分のTCGで得た力を生かせることができたらと思っています」。

ようやく大学生活にも慣れてきたところ。新しい吹田みらいキャンパスも、今は同学部の1年次生だけでのびのびと過ごせているという。

「授業では基礎知識を学んでいる段階です。今後、企業と連携したアクティブラーニングの授業もあると聞いているので楽しみです」。

現在、思い描いている自身の将来像についても聞いてみた。「このままTCGのプレイヤーとしてさらに高みを突き詰めていきたい気持ちもあるし、ビジネスデータサイエンティストとしてTCGに携わる職業に就くことにも興味があります。この4年間で自分がどんな風に成長していけるのか、とても楽しみです」。

人生を変える “きっかけ”を届けたい

刺激し合える新しい仲間に恵まれて

◉ビジネスデータサイエンス学部 1年次生
谷口 寛奈 さん

谷口 寛奈――たにぐち かんな
■2006年兵庫県生まれ。兵庫県立武庫荘総合高等学校卒業。高校時代からビジネスの世界に興味を抱き、高校生向けビジネススクールへの参加やコンテスト出場などに挑戦。「甲南大学 Research Festa」ロジカルデザイン賞、「高校生向け ビジネスプランコンテスト」(主催：尼崎商工会議所)優勝、「アントレプレナーシップ・プログラム 高校生Ring」(主催：株式会社リクルート)セミファイナリストなどの実績を持つ。現在は学部での学びに意欲的に取り組むほか、サークル活動や学外活動にも積極的に参加している。

▲▼高校時代に参加した「令和6年度起業家教育プログラム実施報告会」

「今の私の軸になっているのは、高校時代の学びです」と話す谷口寛奈さん。谷口さんが通っていた高校の総合学科は、約130の選択科目から興味のある授業を中心に学ぶことができる教育課程。大学のようなゼミ活動もあり、多様な進路実現に対応するキャリア教育を実施している高校だった。

また、起業家教育プログラムの参加校だったこともあり、企業の社長や起業家が講演に来校する機会も多く、ビジネスへの意識を高める日々を送ったという。

そして2年生の時、全国の高校生がビジネスプランを考案、その独創性や実現性などを競うコンテスト「高校生Ring」に参加することになった。谷口さんは惜しくもセミファイナルの3次審査から先へ進むことは叶わなかったが、この時にプレゼンテーションの楽しさや面白さを体感したという。

「当時所属していた起業ゼミの先生がプレゼンテーションを丁寧に指導してくださったんです。ビジネスの上での重要性や自分の知識不足を痛感して、もっと学びたい！と思えるきっかけをいただきました」。

やがて進学を考えた時に、先生から勧められたのが関西大学のビジネスデータサイエンス学部。「学部名を初めて聞いた時には正直言ってあまりイメージが湧かなかったのですが、調べてみると、これからの社会で重要な役割を果たす分野であり、なおかつ自分が望んでいた“ビジネス”と“プログラミング”の両方を学べる。そんな学部は他にはないのではと、魅力を感じました」。

いざ入学してみると、ビジネスの最前線で活躍する実務家や、IT分野で先端研究のキャリアを持つ教授陣からの学びはどれも興味深く、同級生たちとのコミュニケーションやディスカッションの多い“人ありき仲間ありき”の学部だと感じたそう。

「今は、授業が楽しい！のひと言です。グループディスカッション一つとっても、それぞれが率先して“自分が司会者をやりたい”“内容をパワーポイントでまとめておいたよ”“さっきのデータは共有ファイルに入れておくね”といった具合に物事がアクティブに進んでいくことに刺激をもらい、私も頑張らないと！と奮い立たされています」。

さまざまなスキルや実績、多様な個性を持った学生が第1期生として集まっている中で、気後れせず互いにフォローし合い、コミュニケーションを密に取りながら共に意識を高く持って学べる環境なのだそう。

大学生活4年間での目標の一つは、自身の能力を示すことができる資格の取得。そして、より早い時期からの就職活動や、学生のうちに入社して働く環境など、実社会での自分の価値をしっかり見定める機会を持ち、自身に足りないものや学ぶべきことを自覚する機会をつくりたい、と意欲的だ。

「将来はさまざまな人の“きっかけ”をつくる仕事がしたい。私も恩師にもらったきっかけがその後の学びへつながることに気付き、希望の学びが叶うビジネスデータサイエンス学部への進学が実現しました。いろんな人がステップアップできるようなきっかけづくりを、今度は私が応援できるように努力していきたいです」。